

## 悪化傾向にある中小企業の業況

平成23年7月20日

全国商工会連合会

全国商工会連合会（会長：石澤義文）は20日、平成23年4月－6月期中小企業景況調査（8,000企業対象、6月1日時点調査実施）の結果をとりまとめた。

平成23年4月－6月期の中小企業景況調査によると、全産業ベースのD I（景気動向指数・前年同期比）は売上額がマイナス37.1（前期比2.7ポイント低下）となった。採算（経常利益）はマイナス41.8（同2.3ポイント低下）、資金繰りはマイナス28.4（同0.2ポイント上昇）だった。主要3D Iは小幅の動きとなったが、中小企業の景況感は平成22年7月－9月期をピークに緩やかに悪化する傾向にある。

業種別にみると、製造業の悪化が目につく。サービス業もこれら3D Iが低下したが、小売業は逆にそろって改善する結果となった。建設業は、資金繰りは改善したが、他の2D Iは悪化した。売上額D I（建設業は完成工事額D I）は、製造業はマイナス24.9（前期比10.9ポイント低下）、建設業はマイナス26.0（同0.8ポイント低下）、小売業はマイナス44.2（同2.1ポイント上昇）、サービス業はマイナス44.1（同2.7ポイント低下）だった。

製造業では、4業種で主要3D Iがそろって悪化した。とりわけ、「精密機械器具製造業」と「輸送用機械器具製造業」の落ち込みが大きかった。一方、「飲料・飼料・たばこ製造業」や「繊維工業」では3D Iがそろって改善した。また、6業種で売上（加工）額や採算のどちらか一方が改善しており、製造業全体が一方向的に悪化に向かっているわけでもない。建設業は、完成工事（請負工事）、採算（経常利益）がともに前年より「増加」、「減少」とする回答割合が前期より増えた。この結果、D Iは小動きとなり、建設業の景況は方向感に乏しい状況となった。小売業は、3期ぶりに3D Iがそろって改善したが、業種別に見ると景況はまだら模様。6業種のうち、「飲食料品小売業」と「その他小売業」で3D Iが改善したが、「織物・衣服・身の回り品小売業」と「家具・建具・じゅう器小売業」では悪化した。小売業全体で上向いたのは、3D Iが改善した「飲食料品小売業」と「その他小売業」2業種の全体に対する比率が7割を超えていることも影響していよう。サービス業は、3期連続して主要3D Iがそろって低下する結果となった。6業種のうち4業種で3D Iが悪化した。この4業種は悪化幅も大きかったが、特に「輸送業」はそろって2ケタ減少と落ち込みが目立った。逆に3D Iが改善したのは「洗濯・理美容業」の1業種だけだった。

（注）D I（景気動向指数）は各調査項目について、各調査項目について増加（好転）企業割合から減少（悪化）企業割合を差し引いた値を示す。 連絡先 企業環境整備課 堀内 TEL 03-3503-1257